

「聖母の被昇天」の祝日の説教

金 大烈 神父 2010年8月15日(日)

《マリア様の被昇天は私たちの希望です》

主の平和！

今日は何の日ですか？ マリア様が天にあげられた日、それを祝う日ですね。

(国際ミサで)いろいろな国の人々が沢山来ていますが、仕方なく日本語のみで話しますが理解していただきたいです。

今日はマリア様がこのまま天に上げられた、被昇天の祝い日です。このことは私たちカトリック教会では長い間信じるべきこととして信じています。カトリック以外ではいろいろ言われていますが、私たちはマリア様が(神様によって)昇天されたことを堅く信じています。ではなぜ神様はマリア様を天にあげられたのでしょうか？ その理由は何でしょうか？ 救い主のお母さんだから？ イエス様を生んで苦労した人生を歩まれたからでしょうか？ 神様のひとり子のお母さんだから当然だと思ったらそれは間違いです。マリア様の被昇天が一番大きく示していることは「希望です。」何の希望ですか？ 私たちも復活できるという希望を表しているのです。

皆様、想像してみてください。もしかしたらイエス様より辛い人生をすごしたのはこのお母さんかもしれないと私は試してみました。大天使ガブリエルに会ってから自分の人生を100%あきらめて過ごした人生だったんでしょう。乙女として子をみごもったためにいろいろに噂されて辛かったでしょう。子を産むところがなくあちこち探し回って馬小屋でイエス様を生みました。生んだとたん生まれた男の子を殺すと言うヘロデを避けてエジプトへ逃げなければなりません。その後30年間子どもを育てましたが、マリア様の心には大天使ガブリエルが話したことが刻まれていました。「この子は本当に救い主なのだろうか？」という人間的な葛藤もあったでしょう。30歳を過ぎてイエス様はあちこち回られましたね。政治犯とか、なにかの暴力団の親分みたいに言われたり、いろんな話も聞いてお母さんは辛かった。その痛みの頂点はいつですか？ 十字架に掛けられた血だらけの息子を見たときでしょう。何もできない無力な母として見守るしかなかった。どのくらい辛い痛みの心で見上げたんでしょうか。マリア様は人間が体験できるあらゆる痛みをすべて受けられた方です。そしてそれを乗り越えられた方です。そういうことを私たちは意識しなければなりません。彼女によってもう一回見せられたのは復活です。私たちもいろいろな難しさを乗り越えれば復活させられるという信仰をマリア様が現して下さいました。

赤ちゃんは生まれてからどの位で^は這いますか？ 何ヶ月位ですか？(「7から8ヶ月位です。’)では、よちよち歩くのは？(「1年半位です。’)私は1年3ヶ月で走ったって言われましたけど。(笑い)皆様、ころぶのは怖いでしょう？ こわくないですか？ ころびたくない。ころんだらどうしようかという恐さがありますよね。心配しないで下さい。なぜなら皆さんはいままで十分ころんできました。

十分練習ができています。赤ちゃんが歩けるようになるために何回位ころぶかご存知ですか？ 平均的に 2000 回ころぶんだそうです。それほどだとは思わないでしょう？ 実際に赤ちゃんがころんで自分の力で立ち上がれるようになるには 2000 回ころぶようです。そのように私たちは生まれてからいろいろな試練や難しさ乗り越える練習をしてきたわけです。ただ覚えていないだけです。マリア様もころんでも立ち上がる姿を見せて下さったのです。

今日、被昇天の祝い日にもう一回考えてみましょう。皆様それぞれにいろんな難しさがあると思います。しかし、私たちには大きなバックグラウンドがあります。

イエス様が支えて下さる。ころんだら手を伸ばして下さい。もちろんお母さんであるマリア様もそうして下さい。恐がらないで下さい。ころんだらまた立ち上がればいいんじゃない、という気持ちで毎日毎日向かっていく。それが必要じゃないかと思います。ころぶことを恐れる心が希望をなくします。私たちの信仰は希望です。その希望を持ちながら今日、明日生きましょう。

ありがとうございました。